

みんなの未来をつくるまち活補助金 活動発表交流会用 活動紹介シート

団体名

産前産後プロジェクト ココロエ

採択事業名

産後のママの交流、必要な学びの場

① 採択事業の概要

1 解決したい地域課題とその背景

- ・ 母親が育児ストレスや孤独感を一人で抱え込みやすい状況が生まれている。
- ・ 背景には、育児に関する悩みや思いを共有し、情報交換ができる場が不足していることがある。その結果、答えのない育児を母親が一人で抱え込みながら行う状況が生まれ、「一般的にはこうあるべき」という価値観に頼らざるを得なくなっている。
- ・ こうした状況の中で、母親が子どもと自分の存在を分けて捉えにくくなったり、自身の気持ちを後回しにした育児につながっていると考えられる。

2 上記の課題を解決するための申請事業の概要

- ・ 母親と子どもがそれぞれ異なる存在であることを理解し、違いを認め合いながら個人を尊重した関わりができるよう、母親自身が日常生活での子どもへの言葉かけや育児に対する価値観を見直す機会を作る。
- ・ 複数人の母親が集まる座談会形式で実施し、参加者同士が思いや悩みを共有しながら、子どもとの関わり方について考える場とする。
- ・ 座談会の中に座学の時間を取り入れ、絵本や作成したスライドを教材として活用しながら、「我が家でできる関わり方」を見つけてもらえるように悩みや想いを共有してもらう。
- ・ 座談会後にはランチタイムを設け、参加者がリラックスして話せる雰囲気の中で、地域の子育て支援に関する情報共有や参加者同士の交流を促す。

3 事業内容によって到達したい状態や目標

- ・ 参加者が育児の中に気持ちの余白を持ち、子どもとの時間や自分自身の時間を前向きに楽しめるようになること。
- ・ 参加者が安心して自分自身や子どものことについて話すことができ、育児に関する悩みや思いを一人で抱え込まずに共有できる場を作ること。

② 今年度の事業報告と今後の見通し

1 実際に実施した事業の内容と参加者数など成果

- ・ 8/5 はぐみー夏休みラボ
親子で気持ちについて考える会
場所:神足ふれあい町家 参加者:4組の親子
- ・ 9/6 座談会(長岡京市ヘルシーフェスタ内)
パパの育児参加についての座談会
場所:バンビオ 参加者:6組
- ・ 10/7 はぐみーラボ
日常にある子どもの性にまつわる疑問を話す座談会
場所:神足ふれあい町家 参加者:4人
- ・ 12/2 はぐみーラボ
日常にある子どもの性にまつわる疑問を話す座談会
場所:神足ふれあい町家 参加者:5人
- ・ 12/23 はぐみー冬休みラボ
助産師を招き「子どもの防犯」を考える講座と座談会
場所:神足ふれあい町家 参加者:3組の親子、6人のママ
- ・ 参加した方からの以下のような感想があった。
 - ①「育児の中で効率を優先しがちだったことに気づき、子どもの気持ちに寄り添うことの大切さを改めて感じた」
 - ②「子どもだけでなくママ自身の気持ちに目を向けてもよいと気づけた」
ここから育児や性教育について学ぶ機会や相談先が少ない中で、不安を一人で抱えている母親が多いことがわかり、本事業を通して参加者が安心して思いを話し、必要な知識や考え方を共有することで、子どもとの関わりを必要以上に難しく捉えず、気持ちに余白を持って向き合えるようになった様子が見られた。
- ・ 「先輩ママの体験談を聞くことで、将来の育児のイメージが持て、不安が軽減された」という、0歳の赤ちゃんを育てる方からの感想があり、参加者同士が育児経験を共有することで、相互に支え合う場にもなっていることがわかった。

2 広報の方法*参加者を公募した方法

- ・ ヘルシーフェスタや、各座談会にてチラシ配付
- ・ SNS(団体のInstagram)
- ・ 子育て広場等で話をした方にお声かけ

3 収入を得る方法*事業を今後も続けるための収入

- ・ 参加者から参加費を集める

4 次年度以降の事業の展開

- ・ 単なる座談会にとどまらず参加者が日常の育児の中で実践できるような内容となるよう、プログラムの工夫・充実を図っていく
- ・ 初めての方が安心して参加しやすい場作りのために、会の様子や参加者の感想が伝わる発信をしていく

